

スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- 「必読!安全運転のために」および次のシンボルマークで示したところは重要です。しっかりお読みください。

▲警告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
▲注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
ⓘアドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なおことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

- ◇ お車の正しい取扱い方法
- ◇ 日常点検、定期点検
- ◇ 保証内容と保証期間
- ◇ 保証書の発行《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡してください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車不一致の場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成32年排出ガス規制適合車です。

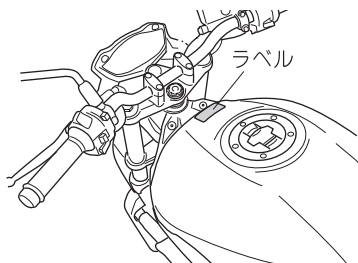
必読！安全運転のために	運転の前に.....2	運転中は.....5	車の整備など.....7
取扱いの方法	各部の名称.....10 メータの見かた.....13 スイッチの使いかた.....22 ハンドルロック.....26	シート.....27 ラゲッジストラップ.....28 書類入れ、サービス工具.....28 ガソリンの給油.....29	ブレーキレバー.....31 チェンジペダル.....31 フロントフォーク (SV650X) ...31 リヤショックアブソーバ.....32
正しい運転操作	エンジンのかけかた.....33	走りかた.....35	ブレーキの使いかた.....37
お車の点検	日常点検、定期点検.....39	日常点検項目.....40	
簡単な整備	簡単な整備.....41 スロットルケーブル.....41 ブレーキ.....42 フューエルタンク.....46	クラッチ.....48 エンジンオイル.....49 冷却水.....53 エアクリーナ.....54	ドライブチェーン.....56 ヒューズ.....58 バッテリー.....60 タイヤ.....62
お車の手入れ	洗車.....64 プラスチック製部品.....65 つや消し塗装.....65	アルミホイール.....66 エキゾーストパイプ.....66 スロットルケーブルブーツ.....66	保管のしかた.....67 環境を保護するために.....67
サービスデータ	主要諸元.....70	サービスデータ.....71	車台番号.....71

運転の前に

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、なれるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。

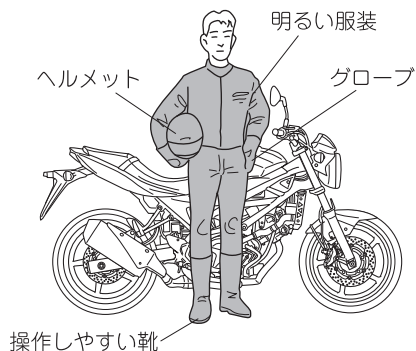


◇ 転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。

◇ 取扱説明書をよくお読みください。

■ 安全な運転は正しい服装から

- ヘルメットを必ず着用してください。PSC、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットを必ずかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。ヘルメットは頭にしっかり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを使用してください。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用してください。万一のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。



▲警告

- ヘルメットを正しくかぶってください。正しくかぶらないと事故の際、死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。
- 運転者と同乗者は、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

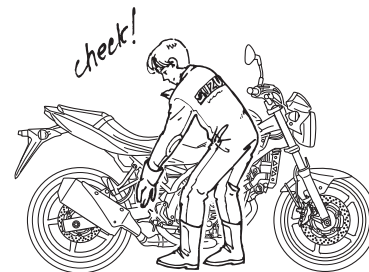
うしろの席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートを着用しないでください。テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続の車に見落とされるおそれがあります。

やむを得ず着用する場合は、ジャケットやコートのすそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されないようにしてください。

■点検整備をしましょう

事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。

いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。



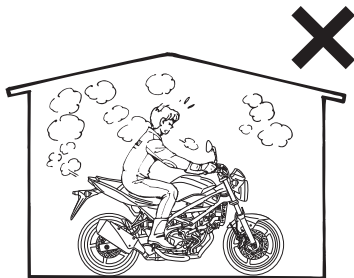
運転の前に

■ エンジンかけるときは

風通しのよい場所でエンジンをかけてください。

下記のような使いかたは、エンジンの温度上昇をまねき、エンジンや車体の損傷の原因になります。

- 長時間のアイドリング
- 不必要な空ふかし
- スロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作

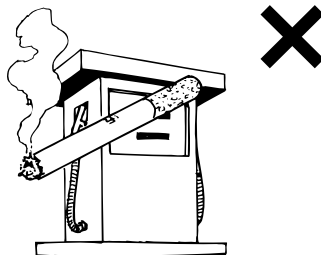


▲ 警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

■ 給油するとき

ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。

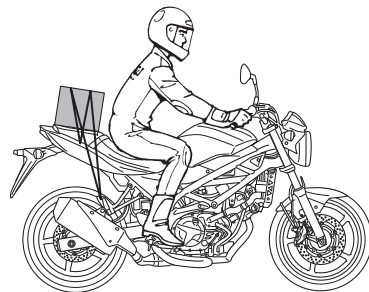


■ 乗車定員は2名

二人乗りでは通行できない道路区分もあります。また、二人乗りは年令や経験年数の制限もあります。二人乗りに関する条件や交通規制をしっかり守り、マナーのよい運転を心がけましょう。

■ 荷物

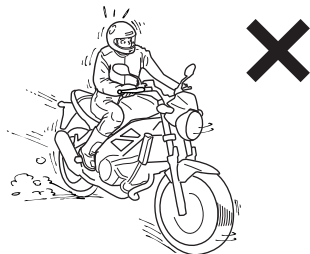
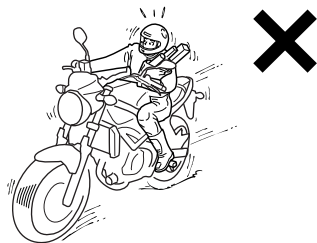
- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないようにしてください。



運転中は

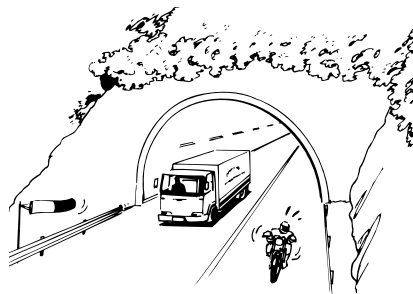
■ 乗りかた

- 運転中は両手でハンドルを握り、足をフットレストに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足は後席用フットレストに乗せさせてください。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。



■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。



■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

運転中は

■ 冠水した場合は走行しない

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。

また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線への浸水
- ペアリングなどの潤滑不良
- オイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。）

注 記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品の故障、エンジンの破損などの原因となります。

■ 車を押して移動するとき

車を押して移動するときは、メインスイッチをOFFにしてください。

■ 駐車するとき

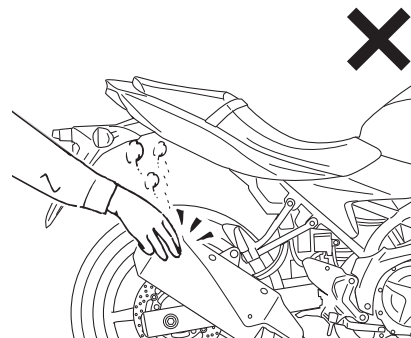
車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。

📖 26ページの「ハンドルロック」参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。

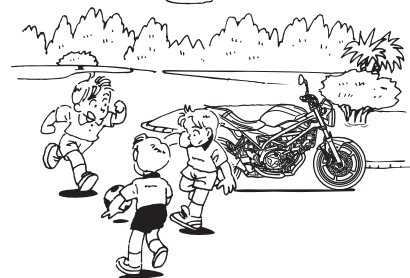
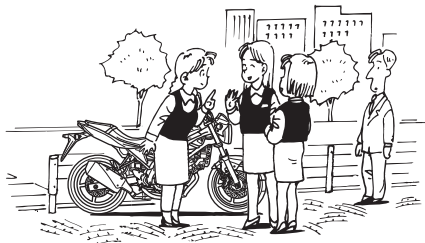
▲ 注 意

- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- マフラに内蔵されている触媒装置は高温になります。車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。火災の原因となるおそれがあります。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどに触れないでください。



車の整備など

- 他の人がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

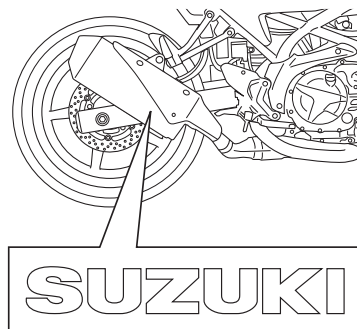


■ 不正改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。

車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

- マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。



- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。



- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラには排気ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。

車の整備など

■ 触媒装置について

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。特別な点検および整備は必要ありませんが、不適切な運転や誤った取扱いをすると触媒装置が異常な高温になり、触媒装置および他の関連部品が損傷するおそれがありますのでご注意ください。

注 記

触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、下記の注意事項をお守りください。

- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。
- エンジンの性能の低下や不調を感じたときは、スズキ販売店で点検を受けてください。
- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。
- 押しがけや下り坂を利用してのエンジンの始動を行わないでください。
- 診断テスト中などで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。
- 不要な空ふかしや長時間のアイドリングは行わないでください。
- フューエルタンク内のガソリンを使い切ること（ガス欠）のないようにしてください。

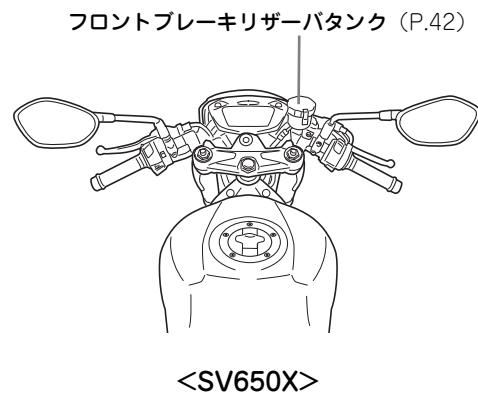
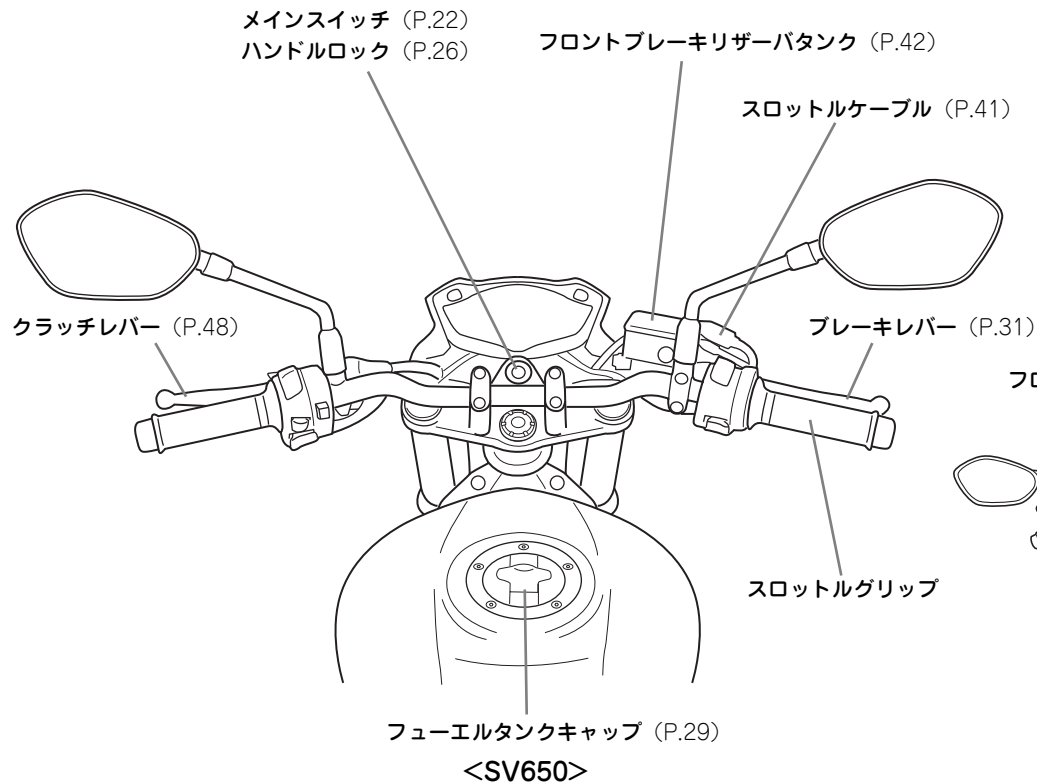
■ LED(発光ダイオード)

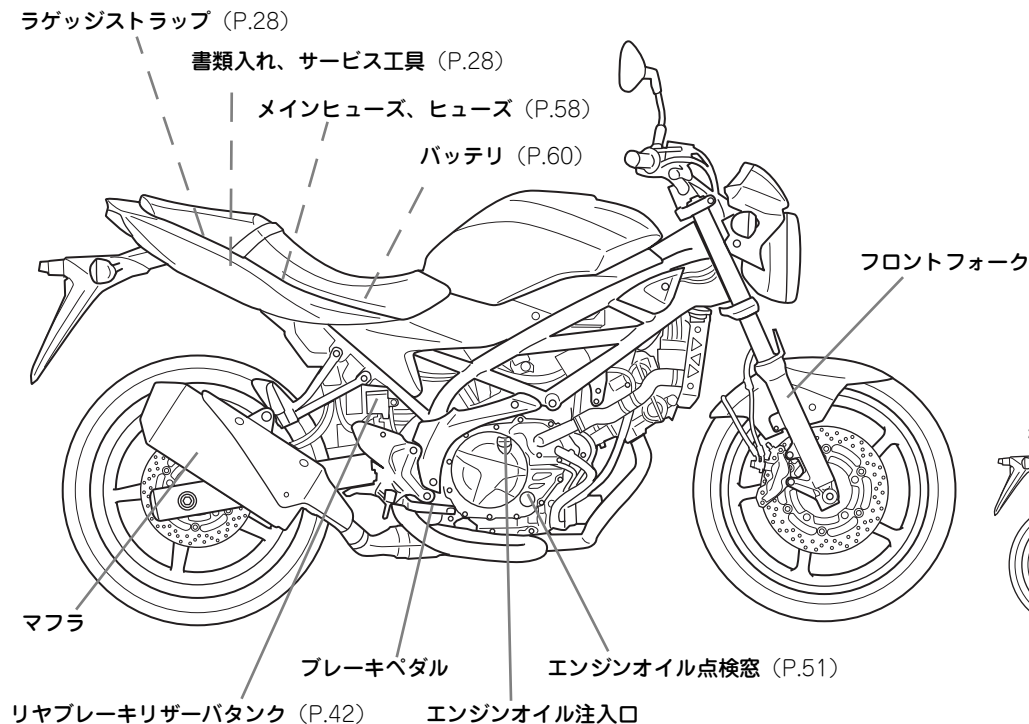
LEDを使用したランプは非分解式のため、LED のみの交換はできません。もし、LED が1 つでも点灯しなくなった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

× ㊦

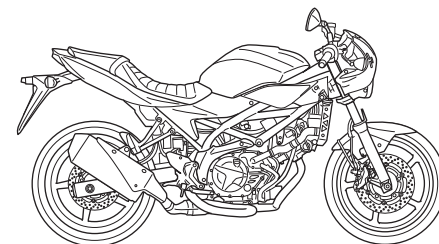
取扱いの方法

各部の名称





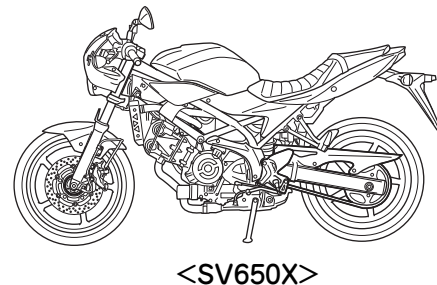
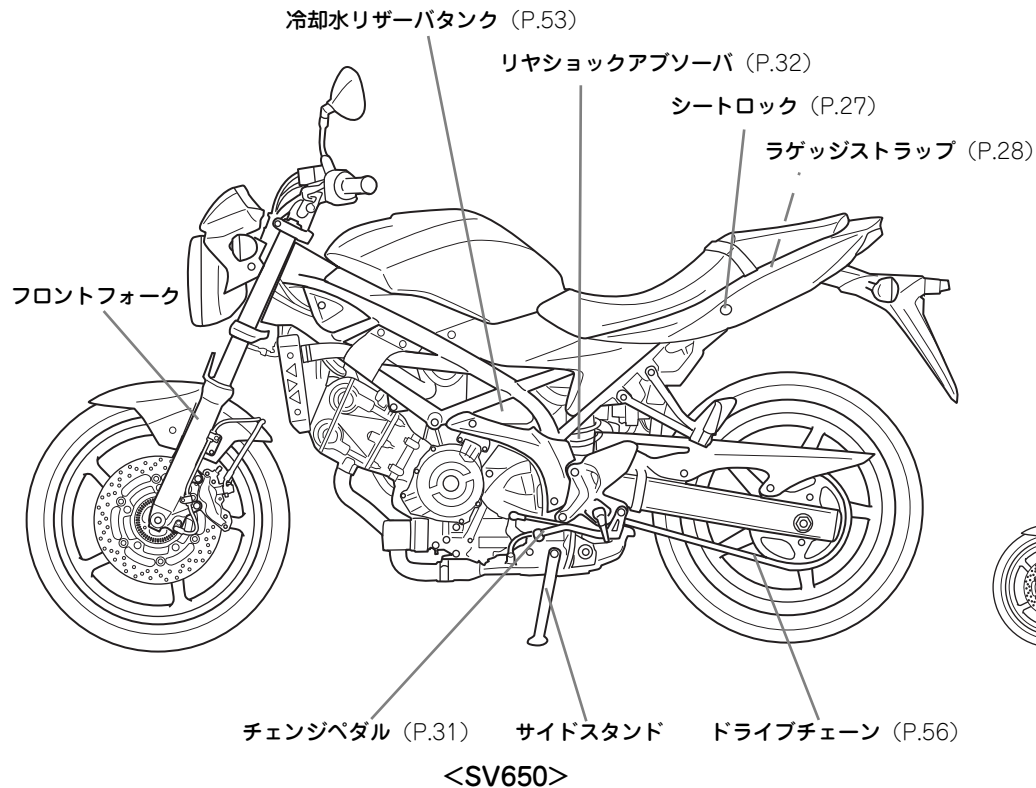
<SV650>



<SV650X>

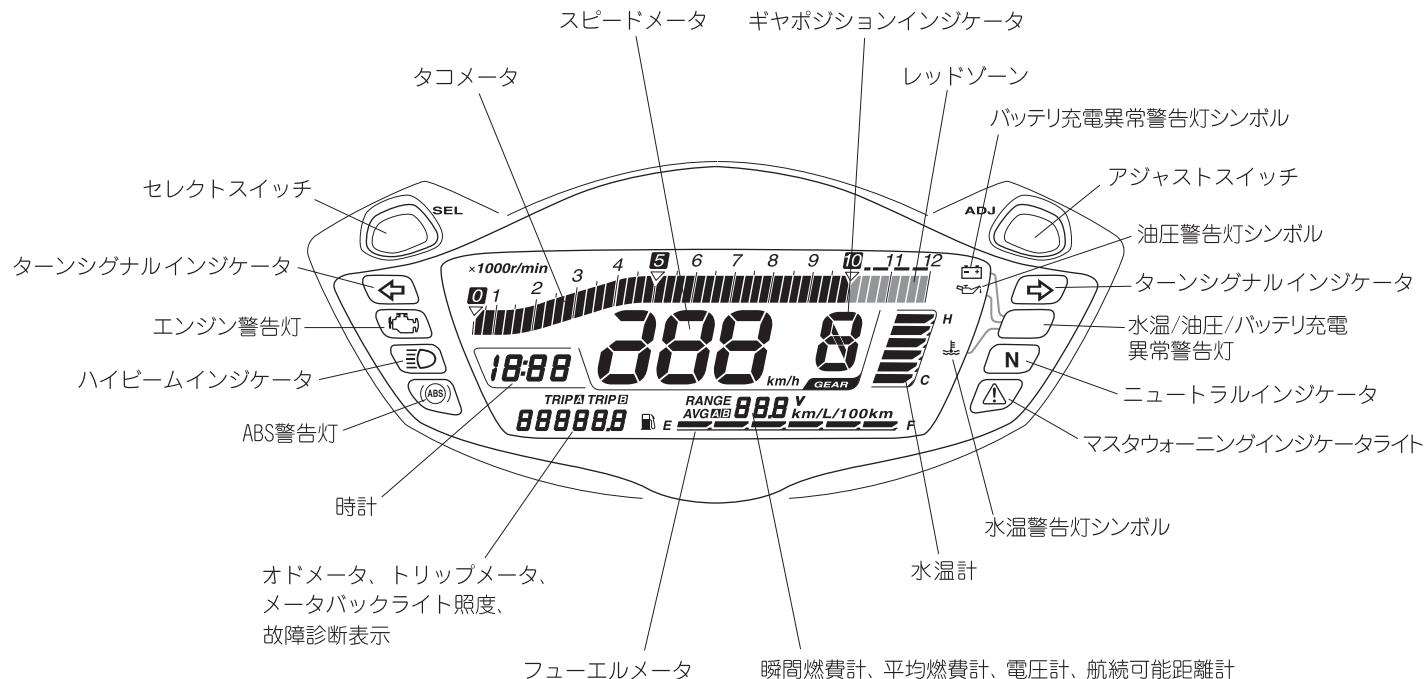
——部は見えない部分を示します。

各部の名称



——部は見えない部分を示します。

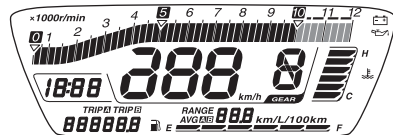
メータの見かた



メータの見かた

メインスイッチを**ON**にすると

- エンジン警告灯、マスターウォーニングインジケータライトが3秒間点灯します。
- ABS警告灯、水温/油圧/バッテリー充電警告灯が点灯します。
- 全液晶ディスプレイセグメント表示(チェックパターン表示)を行います。



▲ 警告

走行中にスイッチ操作を行なうと危険です。必ず停止中に操作してください。

■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

■ タコメータ

エンジンの回転速度を示します。

注 記

- エンジンの回転速度がレッドゾーンに入らないよう注意して走行してください。
- 空ふかしや、1速/2速での急加速はレッドゾーンに入りやすいので、特に注意してください。
- レッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジン回転速度を下げてください。

<レッドゾーン>

レッドゾーンとは、エンジンの許容回転速度を超えた回転域を示します。レッドゾーン内で使用すると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジン寿命に悪影響を与えます。

<表示パターンセッティングモード>

1. セレクトスイッチを押したまま、メインスイッチを**ON**にします。
2. セレクトスイッチを約4秒間押し続けると表示パターンセッティングモードに移行します。
3. セレクトスイッチを押すと表示パターンが切り替わります。表示パターンは下記のように切り替わります。

ノーマル → ピークホールド → ノーマル

4. アジャストスイッチを押すと通常表示に戻ります。

■ オドメータ、トリップメータ、メータバックライト照度

メインスイッチをONにするとチェックパターンを3秒表示後、オドメータ、トリップメータAまたはB、メータバックライト照度のいずれかを表示します。

- セレクトスイッチを押すと右図のように切り替わります。
- メインスイッチを OFF にしても設定は記憶されます。

<オドメータ>

00323.1

<トリップメータ A>

TRIP A
303.2

<トリップメータ B>

TRIP B
2308.4

<メータバックライト照度>

000000

<オドメータ>

- 走行した総距離をkmの単位で示します。
- オイル交換や定期点検の目安となります。
- オドメータの表示範囲は、0～999999です。999999を超えると、オドメータは999999を表示し続けます。

<トリップメータ>

- リセット後の走行距離がkmの単位で表示されます。
- TRIP A, B 2つのモードがあります。表示範囲は0.0～9999.9です。9999.9を超えると0.0に戻ります。
- セレクトスイッチを約 2 秒間押すとリセットされ、“0.0”を表示します。リセットされるのは表示している TRIP AまたはBだけで、表示していない方はそのままです。
- TRIP AまたはBをリセットすると、それに対応する平均燃費計もリセットされます。一定距離を走行するまで平均燃費計は“— . —”を表示します。

メータの見かた

<メータバックライト照度>

セレクトスイッチを押し、メータバックライト照度を表示します。セレクトスイッチを約2秒間押すと“”マークが点滅します。セレクトスイッチを押すとメータバックライト照度を6段階に調整できます。照度インジケータは、照度を“”（最低）から“”（最高）まで調整できます。調整中、セレクトスイッチを約2秒間押すと、調整が終了しメータバックライト照度の表示にもどります。

■ 瞬間燃費計、平均燃費計、電圧計、航続可能距離計

メインスイッチをONにすると、チェックパターンを3秒表示後、瞬間燃費計、平均燃費計、電圧計、航続可能距離計のいずれかを表示します。

RANGE  88.8 ^V km/L/100km

- アジャストスイッチを押すと右図のように切り替わります。
- 燃費表示には、1Lあたりの走行距離を示す“km/L”と100km走行するのに必要な燃料を示す“L/100km”があり、アジャストスイッチを2秒以上押すと切り替わります。
- メインスイッチを OFF にしても設定は記憶されます。

<瞬間燃費計>

20.5 km/L



<平均燃費計>

AVG  10.0 km/L



<電圧計>

12.3 ^V



<航続可能距離計>

RANGE  55 km



<瞬間燃費計>

- 走行中の瞬間燃費を表示します。停車中は“—.—”を表示します。
- “km/L” の表示範囲は0.1～50.0で、これ以外のときは表示しません。
- “L/100km” の表示範囲は2.0～50.0で、これ以外のときは表示しません。

ⓘアドバイス

燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なります。

<平均燃費計>

- TRIP A, B 各々の走行距離に対する燃費を表示します。平均燃費計をリセットするには、トリップメータをリセットしてください。一定距離を走行するまで平均燃費計は“—.—”を表示します。
- “km/L” の表示範囲は0.1～50.0で、これ以外のときは表示しません。
- “L/100km” の表示範囲は2.0～50.0で、これ以外のときは表示しません。

ⓘアドバイス

燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なります。

<電圧計>

バッテリーの電圧を10.0V～16.0Vの範囲で表示します。

ⓘアドバイス

- 表示される値は、他の計測器の値と異なる場合があります。
- 12.0V 以下の電圧値を頻繁に表示する場合は、スズキ販売店にご相談ください。

<航続可能距離計>

- 現在の燃料残量で走行できるおよその距離が表示されます。
- バッテリーを外すと航続可能距離計がリセットします。その場合は、一定距離を走行するまで—.—を表示します。
- 給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。
- お車がサイドスタンドで立てられている場合は、航続可能距離計を更新しません。航続可能距離計の更新はサイドスタンドを外した状態でのみ行います。
- 航続可能距離は過去の平均燃費をもとに算出される目安であるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

ⓘアドバイス

- 航続可能距離は、あくまで目安です。表示されている距離が短くなりましたら、早めの給油をおすすめします。
- 航続可能距離を算出するための平均燃費は表示されません。また、表示されているトリップメータの平均燃費とは異なることがあります。

メータの見かた

■ エンジン警告灯(MIL) / マスタウォーニングインジケータライト

車両に異常が起きると、エンジン警告灯(MIL)や マスタウォーニングインジケータライトが点灯します。

また、オドメータに“FI”、“to”、“IG”を2秒おきに表示します。

- エンジン警告灯(MIL)や マスタウォーニングインジケータライトが点灯した場合は、すぐにスズキ販売店にご相談ください。
- オドメータ/トリップメータ表示に“CHEC”を表示したときは、次の点を確認してください。
 - IGNITIONヒューズが切れていないか
 - 電線の接続不良がないか

	エンジン警告灯(MIL) 	マスタウォーニング インジケータライト 	オドメータ/トリップメータ 
エンジン故障時 (排ガス関連のとき)	点灯	消灯	FI
エンジン故障時 (排ガス関連ではないとき)	消灯	点灯	FI
転倒したとき、 転倒センサの故障時	消灯	点灯	to
メインスイッチ故障時	消灯	点灯	IG
コントローラ通信異常時	消灯	消灯	CHEC

■ 時計

時分を表示します。(12時間表示)

12:00

<時計の調整>

1. メインスイッチを**ON**にします。
2. セレクトスイッチとアジャストスイッチを同時に約2秒間押すと時計表示が点滅します。
3. セレクトスイッチを押し、時表示を調整します。
4. アジャストスイッチを押し、分表示を調整します。
5. セレクトスイッチとアジャストスイッチを同時に約2秒間押すと調整が終了します。

ⓘアドバイス

メインスイッチOFFでも、メータには微小電流が流れ、電力を消費しています。長期間(2か月以上)乗らない場合は、バッテリーを外してください。詳細はP.67のアドバイスをご覧ください。

■ フューエルメータ

フューエルタンク内のガソリン残量の目安を表示します。

	表示	ガソリン残量
 マーク 点灯		満タン
		⋮
		⋮
		⋮
		⋮
 マーク 点滅		約4.2L
		約1.7L

— 点灯 — 消灯



点滅を表す

注 記

フューエルタンク内のガソリンを使い切る(ガス欠)と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

ⓘアドバイス

- マークが点滅したら、すみやかにガソリンを給油してください。
- サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態で確認してください。

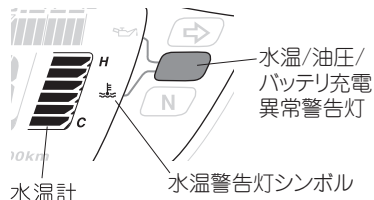
メータの見かた

■ 水温/油圧/バッテリー充電異常警告灯

メインスイッチをONにすると点灯し、正常時はエンジンを始動すると消灯します。異常が発生しているときは、各警告灯シンボルの表示とともに点灯します。

<水温計、水温警告灯シンボル>

冷却水の温度は、水温計、水温警告灯シンボル、水温/油圧/バッテリー充電異常警告灯で表示します。冷却水の温度が116℃を超えると水温計の6つのセグメントが点灯します。120℃に達すると、水温警告灯シンボルが点滅し、水温/油圧/バッテリー充電異常警告灯が点灯します。

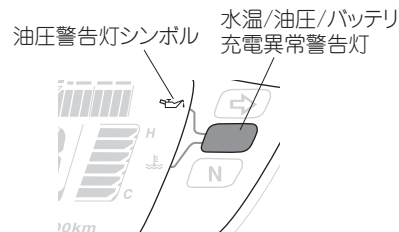


注 記

- 水温計の 6 つのセグメントが点灯したら、エンジンをとめ、エンジンが冷えてからリザーバタンク内の冷却水量を点検してください。
- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、水温計の6つのセグメントが点灯する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、冷えるまでエンジンを停止してください。
- 水温計の6つのセグメントが点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。

<油圧警告灯シンボル>

- 油圧警告灯シンボルはメインスイッチをONにすると表示し、エンジンが始動すると消えます。警告灯もメインスイッチをONにすると点灯し、エンジンが始動すると消えます。
- 潤滑系統の油圧が低下すると、油圧警告灯シンボルが表示され、水温/油圧/バッテリー充電異常警告灯も点灯します。

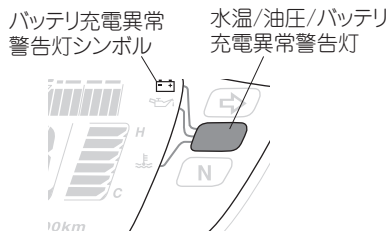


注 記

- 油圧警告灯シンボルが出たまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。
- 油圧警告灯シンボルが出たらエンジンをとめ、オイル量を点検してください。
- オイル量が正常でも表示する場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

<バッテリー充電異常警告灯シンボル>

車両のバッテリー充電系統に異常が発生しているときに点灯します。



アドバイス

走行中に点灯したときは、スズキ販売店にご相談ください。

■ ABS警告灯 (ABS)

- メインスイッチを ON にすると点灯し、車速が約10km/h以上になると消灯します。
- ABSに異常があると点灯します。

▲ 注意

- ABS警告灯が点灯している場合は、ABSは作動しません。
- 走行中に ABS 警告灯が点灯した場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

走り始める前に、エンジンの空ふかしをしたり、車両に振動を与えるとABS警告灯が消えることがあります。この場合は、一旦、メインスイッチをOFFにした後に、再度エンジンを始動してABS警告灯が点灯することを確認してください。ABS警告灯が点灯しない場合は、スズキ販売店に相談してください。

■ ターンシグナルインジケータ

ターンシグナルランプが作動すると点滅します。

■ ハイビームインジケータ

ヘッドランプが上向きになると点灯します。

■ ニュートラルインジケータ N

変速ギヤがニュートラル（チェンジが入っていない）のときに点灯します。

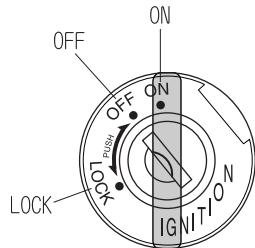
■ ギヤポジションインジケータ

ギヤポジションを表示します。ニュートラル（チェンジが入っていない）のときは“N”を表示します。

スイッチの使いかた

■ メインスイッチ

電気回路のON-OFFをキーを回して行います。



ON

- エンジンの始動・走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
[ヘッド、テール、メータ、ポジション、ライセンスランプ]
- スイッチ、ランプ類が使えます。
[ターンシグナル、ホーン、ハザード、スタータ、パッシング、ディマ]
- キーが抜けません。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

▲ 警告

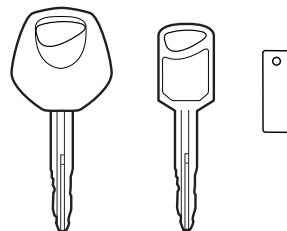
- 走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながる可能性があります。キーは停車後、操作してください。
- 衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。車両の異常により火災が発生したり、リアホイールなどの回転する部品に巻き込まれる可能性があります。転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、すべての装置を停止させます。転倒したときに、見えない部分に損傷を受けている可能性があるので、スズキ販売店で点検を受けてください。

ⓘ アドバイス

- メインスイッチONでヘッドランプなどが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくとバッテリーあがりの原因となります。
- 車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。
- キーはメインスイッチ、フューエルタンクキャップなどに共通して使います。

<キーの取扱い>

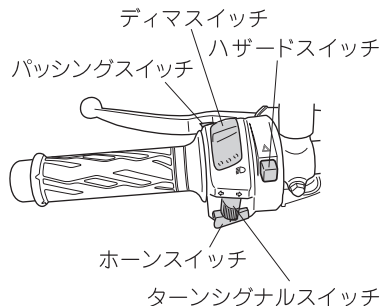
この車にはキーが2個と英数字のキー番号を印したプレートがセットされています。



ⓘ アドバイス

スペアキーは大切に保管してください。

それぞれのスイッチはメインスイッチがONのとき作動します。



■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折 ⇨

スイッチを⇨側にすると、右側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

左折 ⇐

スイッチを⇐側にすると、左側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

▲ 警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は、必ずスイッチを前に押して解除してください。点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

🔊 アドバイス

ターンシグナルランプの電球（バルブ）に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。

■ ディマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り替えます。

ハイビーム ≡▷

スイッチを≡▷側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム ≡▷

スイッチを≡▷側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

注 記

- ディマスイッチをハイビームとロービームの中間位置に止めると、ハイビームとロービームの両方が点灯することがあります。このような状態で走行すると、車両に損傷を与えるおそれがあります。
- ヘッドランプにはテープ類を貼らないでください。

スイッチの使いかた

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

注 記

停車中に、点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり、衣類などを被せないでください。ランプの熱により、レンズが溶けたり、置いた物が損傷することがあります。

■ パッシングスイッチ

追い越しのときなどに、自車の存在を知らせます。スイッチを押すとハイビームが点灯します。ハイビーム点灯中は作動しません。

■ ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

■ ハザードスイッチ

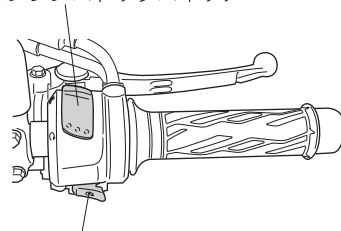
故障などの非常時に、停車するとき使用します。スイッチを押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅します。

アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリーあがりの原因となります。

それぞれのスイッチはメインスイッチがONのとき作動します。

エンジンストップスイッチ



スタータスイッチ

■ スタータスイッチ

エンジンストップスイッチが○になっていることを確認します。スタータスイッチを押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。

この車は、スズキキーレススタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンブッシュするだけでエンジンを始動します。

- ギヤポジションがニュートラルの場合は、クラッチレバーを握らなくてもエンジンを始動することができます。
- ギヤポジションがニュートラルではない場合は、クラッチレバーを握ることでエンジンを始動することができます。

サイドスタンドとギヤの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細はP.33<サイドスタンドインタロック>をご覧ください。

注 記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキキーレススタートシステムを連続で使用するなどしてスタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジションインジケータとニュートラルインジケータの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- ギヤポジションインジケータが “N” の表示をしているとき、ニュートラルインジケータが点灯していること。
- ギヤポジションインジケータが (1、2、3、4、5、6) いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータが消灯していること。

アドバイス

- エンジンストップスイッチが  のときは作動しません。
- スタータスイッチを押し、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒が経過するか、エンジンが掛かるとスタータモータは止まります。

スイッチの使いかた

■ エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、ただちにエンジンを停止させます。

スイッチを~~左~~側に押すとエンジンが停止します。通常は~~右~~にしておきます。

注 記

走行中にエンジンストップスイッチを~~左~~→~~右~~や~~右~~→~~左~~→~~右~~にするとエンジンが円滑に回転しなくなり、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

緊急時を除いて、走行中には使用しないでください。

アドバイス

エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままにしておくとバッテリーあがりの原因となります。

ハンドルロック

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。

チェーンロックなどの併用もおすすめします。

<かけかた>

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら OFF から LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

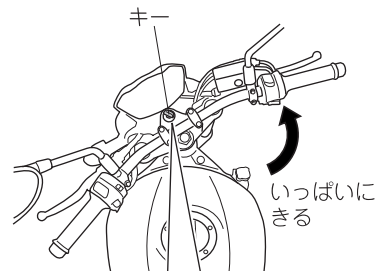
- ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。
- ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。

<外しかた>

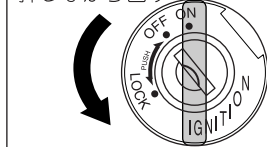
キーを差し込み、押しながらOFFまで回します。

アドバイス

走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。



押しながら回す

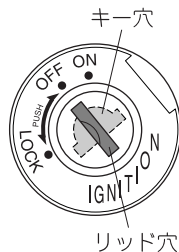


ハンドルロックのかけかた

シート

アドバイス

- メインスイッチのキー穴をカバーするリッドを設けています。

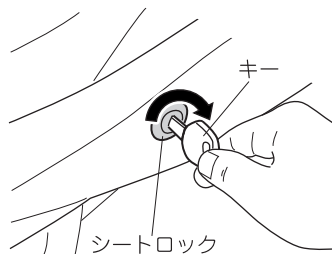


- リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。



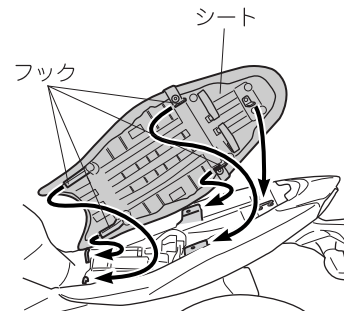
<シートの取り外し>

1. シートロックにキーを差し込み、右に回してロックを解除します。
2. シートの後部を持ち上げ、後方に引いて外します。



<シートの取り付け>

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シートの後部を押し下げ、ロックします。



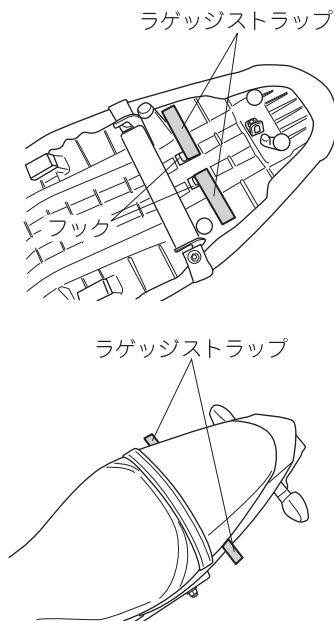
アドバイス

- シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。
- シート下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。

ラゲッジストラップ

荷物を固定する際には、ラゲッジストラップを使用します。

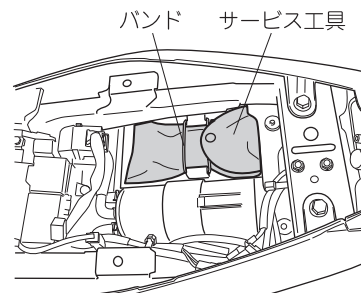
1. シートの裏側にあるラゲッジストラップをフックから外します。
2. 左右のラゲッジストラップを外側にだし、シートをロックします。
3. ゴムバンド等で荷物をシートの上に固定します。



書類入れ、サービス工具

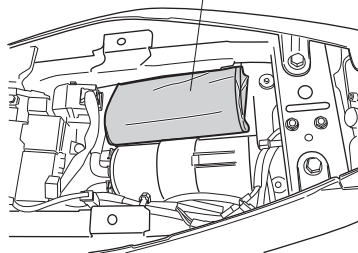
シートを外すと、書類入れ、サービス工具があります。

- サービス工具は、袋に入れてからバンドで固定してください。
- メンテナンスノートは、ビニール袋に入れてここに保管してください。



ガソリンの給油

メンテナンスノート

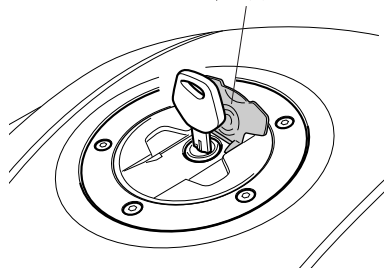


アドバイス

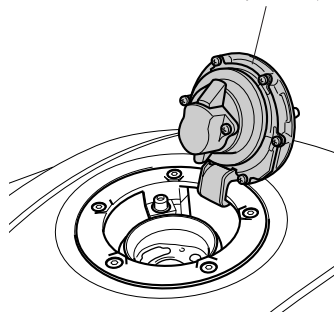
洗車時などに水が入る場合があります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

1. フューエルタンクキャップのキーカバーを開けます。
2. キーを差し込み、右に回してロックを解除します。
3. キャップを開けます。

キーカバー



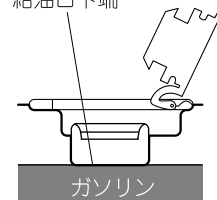
フューエルタンクキャップ



4. ガソリンを給油します。
キャップからガソリンがにじみ出ることがあるため、給油口の下端以上入れないでください。

指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：14L

給油口下端



ガソリン

注記

規定以上の量を給油すると、エンジンの不調や始動不良が起こることがあります。
給油口下端以上は、給油しないでください。

ガソリンの給油

注 記

ノッキング音の発生が気になる場合は、無鉛プレミアムガソリンの使用をおすすめします。

5. キャップを押し下げ、キーを左に回して抜きます。キャップがロックされないとキーは抜けません。

▲警告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。
- 給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。
- 給油後、フューエルタンクキャップをカチッと音がするまで確実に閉めてください。
- こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。

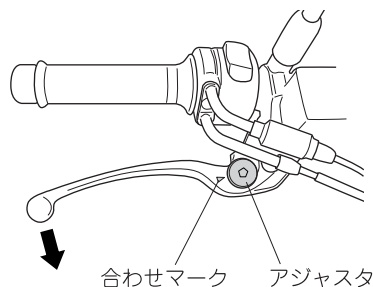
注 記

- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油など、また不適切な添加剤は、エンジン、触媒装置、燃料系統を損傷する原因となります。
- 給油時など、フューエルタンクに砂ぼこりや水などの異物が混入しないように注意してください。フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。
- フューエルタンク内のガソリンを使い切る(ガス欠)と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

ブレーキレバー

ブレーキレバーとグリップとの間隔が調整できます。

- ブレーキレバーを前方に押し、アジャスタを回します。
- アジャスタの数字を「合わせマーク」にしっかりと合わせます。



1	2	標準 3	4	5
← 広い			狭い →	

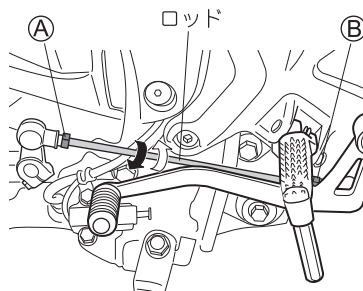
⚠ 警告

走行中は調整を行わないでください。思わぬ事故につながる可能性があります。調整は必ず停車中に行ってください。

チェンジペダル

チェンジペダルの位置が調整できます。

- ロックナット①、②をゆるめ、ロッドを回します。
- ロッドを手前(↓)に回すとペダル位置が低く、反対(↑)に回すと高くなります。



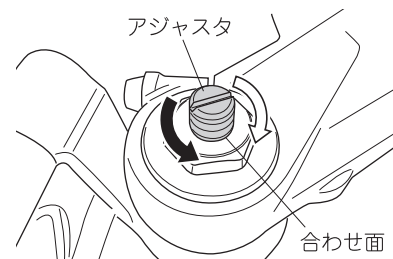
⚙️ アドバイス

- 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。
- ロックナット②は左ねじです。ゆるめるときは右に回し、締め付けるときは左に回します。

フロントフォーク (SV650X)

■ スプリングの強さ

- アジャスタを回し、目盛りを合わせ面に合わせます。
- アジャスタをH(右側)へ回すと強く、S(左側)へ回すと弱くなります。
- 標準位置は2にセットされています。



0	1	標準 2	3	4	5
← 弱い				強い →	

注 記

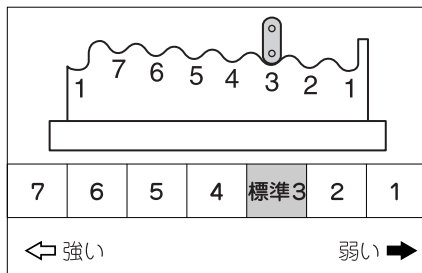
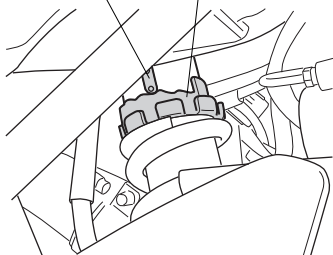
左右同じ位置に調整してください。

リヤショックアブソーバ

■ スプリングの強さ

- サービス工具のクランプレンチでアジャスタを回します。

合わせマーク アジャスタ



⚠ 警告



リヤショックアブソーバには、高圧の窒素ガスが封入されています。不適切な取り扱いをすると、爆発や破裂が起こるおそれがあります。

- 火や熱から遠ざけてください。
- 取扱説明書をよくお読みください。

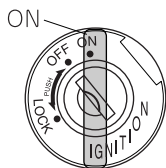
🗣 アドバイス

リヤショックアブソーバを廃棄するときは、スズキ販売店にご相談ください。

エンジンのかけかた

■ エンジンをかける前に

1. エンジンストップスイッチが $\odot$ になっていることを確認します。
2. メインスイッチをONにします。
3. ニュートラルインジケータの点灯を確認します。点灯しないときは、チェンジペダルを操作してニュートラルにします。
4. エンジン警告灯の消灯を確認します。



▲ 警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

⚠️ アドバイス

- スタータスイッチを押している間は、ヘッドランプが消灯します。
- エンジンを始動するときに、ギヤポジションがニュートラルではない場合は、クラッチレバーを握る必要があります。

<サイドスタンドインタロック>

- サイドスタンドの外し忘れ防止装置です。
- サイドスタンドが出ているときは、チェンジ位置ニュートラルでのみエンジンがかかります。またニュートラル以外のとき、サイドスタンドを出すとエンジンが停止します。

チェンジ \ サイドスタンド		
	出ている	外している
ニュートラル	◎	◎
ニュートラル以外	×	○

- ◎ : 始動可
○ : 始動・走行可
× : 始動・走行不可

▲ 警告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

⚠️ アドバイス

- サイドスタンドを完全に外していないとき、チェンジを操作するとエンジンが停止します。
- サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。

エンジンのかけかた

■ エンジンのかけかた

スロットルグリップは回さずに、スタータスイッチを押します。

この車は、スズキキージェースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動します。

ⓘアドバイス

2～3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8ほど回し、スタータスイッチを押します。エンジンがかかったら、スロットルグリップを戻してください。

注 記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキキージェースタートシステムを連続で使用するなどしてスタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。エンジンがかからなかったときは、バッテリー電圧を回復させるため、メインスイッチを一旦OFFにして、10秒くらい休んでください。

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジションインジケータとニュートラルインジケータの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- ギヤポジションインジケータが “N” の表示をしているとき、ニュートラルインジケータが点灯していること。
- ギヤポジションインジケータが (1、2、3、4、5、6) いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータが消灯していること。

注 記

エンジン始動後、油圧警告灯が点灯した状態でスロットルを開けたり走行したりしないでください。エンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

注 記

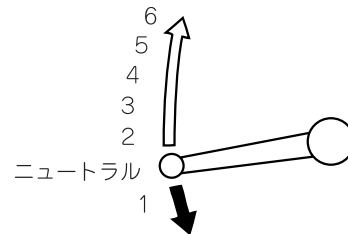
バッテリー充電などのために、長時間のアイドリングはしないでください。オーバーヒートなどによる不具合の原因となります。

ⓘアドバイス

- スタータスイッチを押し、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒が経過するか、エンジンが掛かるとスタータモータは止まります。
- 不必要な空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン、車体、触媒装置に悪影響を与えます。

走りかた

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを握り、チェンジペダルを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。
3. 車のスピードに応じてギヤを切り替えます。ギヤチェンジはリターン式です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行ないます。チェンジ操作は、つま先で軽く行ない、ペダルにコツンとを感じるまで確実に行ってください。



〈暖機運転は適切に〉

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（－10℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコ運転のため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

⚠️アドバイス

長時間のアイドリングやスロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作は、オーバーヒートの原因となり、エンジンや車体の損傷の原因となります。

⚠️アドバイス

転倒した場合は、自動的にエンジンが停止するシステムが作動し、同時にエンジン警告灯が点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こしたあと、メインスイッチを一旦OFFにして、再びONにしてください。エンジン警告灯が消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。エンジン警告灯が点灯したままスタータスイッチを押し続けしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

走りかた

ギヤ	適応速度 (km/h)
1速	0 ~ 40
2速	15 ~ 60
3速	30 ~ 80
4速	40 ~
5速	45 ~
6速	50 ~

▲警告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

注 記

- 無理なチェンジ操作をしたり、チェンジペダルに足を乗せたまま走行すると、チェンジ機構の損傷の原因となります。
- エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。
- エンジン回転速度がレッドゾーンに入らないよう注意してください。もしレッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジン回転速度を下げてください。

注 記

以下のような操作および走行をしないでください。エンジンの損傷の原因となります。

- クラッチレバーを確実に握らないギヤチェンジ操作
- 無理なチェンジ操作
- チェンジペダルに足を乗せたままの走行

📢アドバイス

- チェンジ操作はコツとを感じるまで確実に行ってください。
- むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。
- スピードは控えめにしましょう。
- 走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。

「感情的な走りはいけません

心のブレーキを忘れずに！」

<シフトダウン>

追越しをするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンすると加速力が得られます。シフトダウンは各速5,000r/min以下で行ってください。

▲警告

あまり高い回転数でシフトダウンを行うと、エンジン回転が上がりすぎてエンジン、ミッションが故障したり、走行安定性を失い、尻振りなどの原因となります。

ブレーキの使いかた

<ならし運転>

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の1,000kmを走行するまでは、エンジン回転5,000r/min以下で走行してください。
- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。
- 不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ブレーキは前後同時に使い、エンジンブレーキを併用します。

<エンジンブレーキ>

スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。さらに強力なエンジンブレーキを必要とするときは、6速→5速…とシフトダウンします。

▲警告

- 急激なシフトダウンは走行安定性を失い、尻振りの原因となる事があります。速度に合わせたギヤを選んでください。
- フロントブレーキまたはリヤブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。
- 濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早めにブレーキをかけてください。
- 長時間ブレーキをかけ続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなりますので、事故の原因になるおそれがあります。下り坂にさしかかる前には、十分減速してください。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。

ブレーキの使いかた

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとししないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

⚠️アドバイス

- 濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。
- 洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

<ABS：アンチロックブレーキシステム>

ABSは直進時に急ブレーキをかけたとき、車輪がロックしないよう制御する装置です。ブレーキの操作方法は、通常の車と同様にブレーキレバーおよびブレーキペダルで行います。

⚠️アドバイス

- ABS は制動距離を短くするものではありません。濡れた路面や雪道、でこぼこ路や下り坂などでは、ABSが付いていない車より制動距離が長くなる場合があります。またABSが付いていない車と同様に路面がすべりやすくなるほど制動距離が長くなります。
- コーナリング中にブレーキをかけた場合に起こる横すべりは制御できません。ABSを過信せずに安全運転を心掛けてください。
- ブレーキをかけたときに反動が生じることがあります。これは異常ではありませんので、そのままブレーキを作動してください。
- 車速約8km/h以下ではABSは作動しません。
- バッテリーがあがっている場合も、ABSは作動しません。
- 必ず指定タイヤをお使いください。ABSのコンピュータは、車輪の回転速度を検知しています。サイズの異なるタイヤは車輪の回転速度を変え、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

日常点検、定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

<日常点検>

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
この車に適用される日常点検の項目は次のページをご覧ください。

<定期点検>

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。
定期点検には、1年毎、2年毎に行う点検と、車を使い始めてから1か月（または1,000km）に行う点検があります。

▲警告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。

🔧アドバイス

- お車を使用しないときも定期点検は実施してください。
- お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。
- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検内容など、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

<継続検査（車検）>

小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

▲警告

点検は、安全に十分注意してください。

- 平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。
- エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- 点検、整備を行うときは火気厳禁です。
- 走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。

日常点検項目

ブレーキ

- ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

タイヤ

- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

エンジン

- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

チェーン

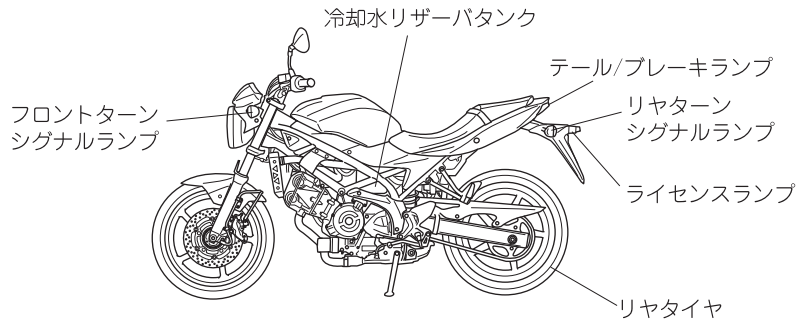
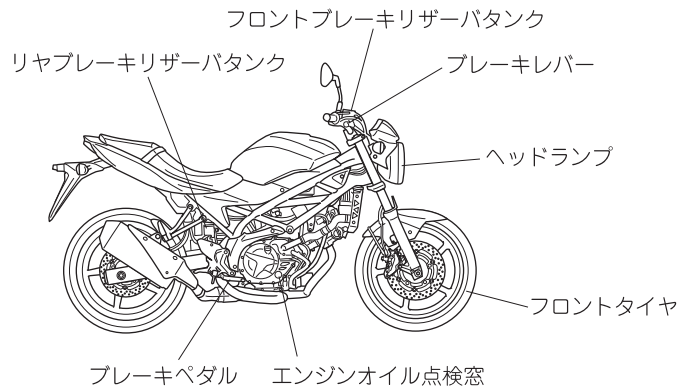
※ ゆるみ

灯火装置、方向指示器（ランプ類）

運行において異常が認められた箇所

※印の点検は、メーカー指定点検を示します。

<日常点検・部品配置>



簡単な整備

ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

▲ 警告

- 整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。
- 平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。
- エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- 点検、整備を行うときは火気厳禁です。

注 記

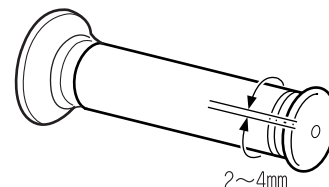
- 整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。
- 適切な工具を使用しましょう。
- スイッチにグリスを塗ったり、油を注したりしないでください。故障の原因となります。

⚠️アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの点検



メインスイッチをOFFにした状態で、スロットルグリップを操作し、スムーズに操作できるか、ハンドルを左右いっぱいに切った状態でも操作が重くないか、傷や損傷が無いかが点検します。また、スロットルグリップを操作し、スロットルケーブルの遊びの量が、2~4mmの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。

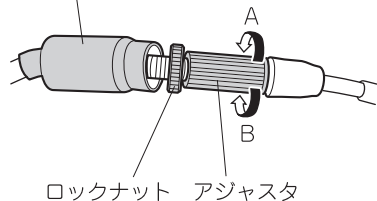
スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの遊びの調整

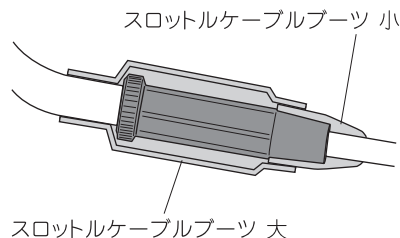
アジャスタにより遊びを調整します。

1. スロットルケーブルブーツをずらし、ロックナットをゆるめます。アジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。

スロットルケーブルブーツ 大



2. 調整後は、スロットルケーブルブーツ小を奥までしっかりと差し込んだ状態で、スロットルケーブルブーツ大の先端をかぶせます。

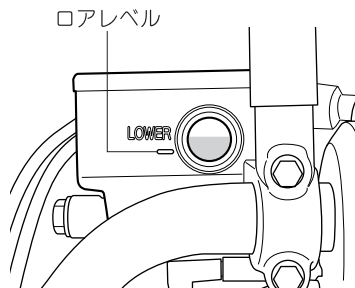


ブレーキ

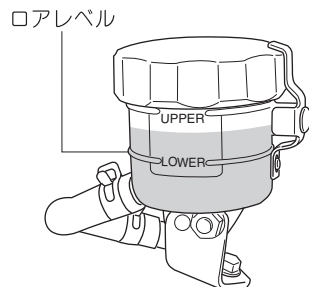
■ ブレーキ液の量の点検

平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。

<フロントブレーキ>

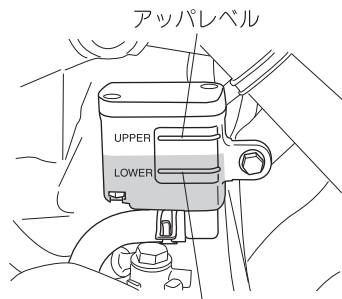


運転席から見たところ
(SV650)



運転席から見たところ
(SV650X)

<リアブレーキ>



ロアレベル
車両右側から見たところ

▲警告

ブレーキ液は、安全のため2年毎に交換してください。

指定ブレーキ液：

スズキブレーキフルードDOT4
(JIS BF-4)

▲警告

- 液面がロアレベル以下の場合は、ブレーキパットの摩耗やブレーキシステムの液漏れ等が考えられますので、スズキ販売店で点検を受けてください。
- ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- 化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
- リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう十分注意してください。
- ブレーキ液の入れ過ぎに注意してください。あふれ出るおそれがあります。

⚠️アドバイス

- ブレーキ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したら、すぐにふき取ってください。
- ブレーキ液面はブレーキパットの摩耗と共に下がっていきます。

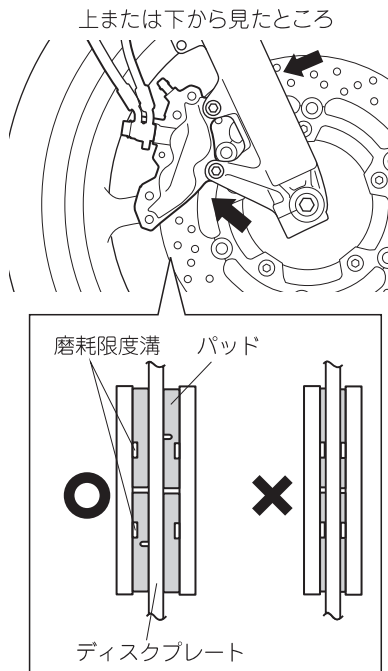
ブレーキ

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

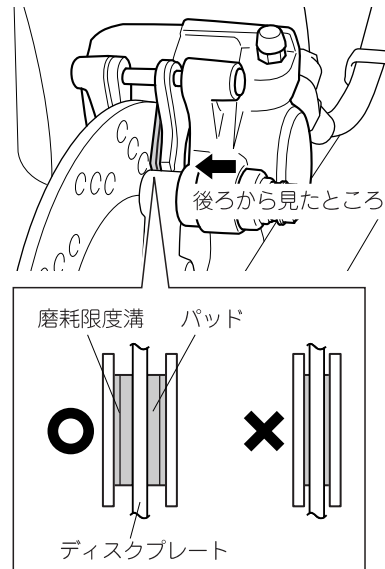
ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。

摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



▲警告

ブレーキパッド交換後、ブレーキレバーまたはブレーキペダルを、正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。

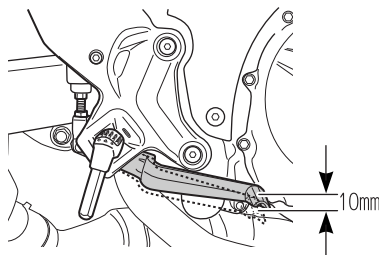
🔊アドバイス

- ブレーキパッドは左右同時に交換してください。
- 新しいブレーキパッドは、きき具合が違います。慎重な運転を心がけてください。
- ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。

■ リヤブレーキランプスイッチの点検

リヤブレーキペダルを10mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。

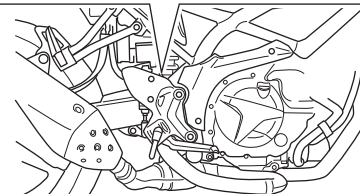
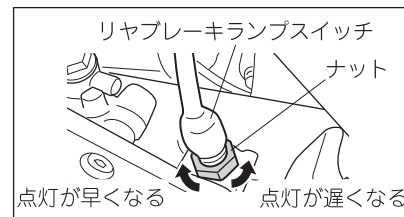
点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



■ リヤブレーキランプスイッチの調整

リヤブレーキランプスイッチ本体が回らないように指で固定し、ナットを回して調整します。

ナットを左に回すとブレーキランプの点灯開始が早くなり、右に回すと遅くなります。



注記

調整をするときにリヤブレーキランプスイッチ本体を回さないでください。配線の断線の原因となることがあります。

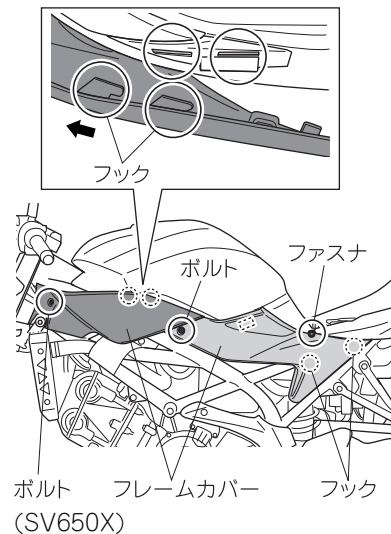
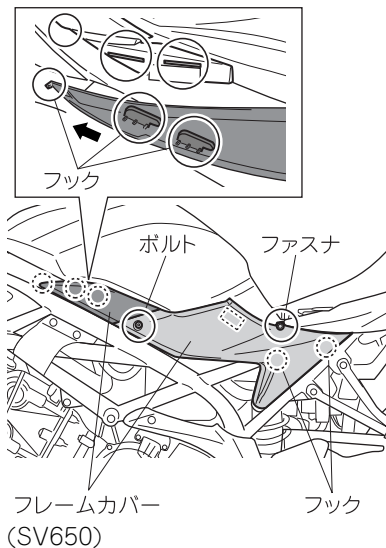
フューエルタンク

<フューエルタンクの持ち上げ>

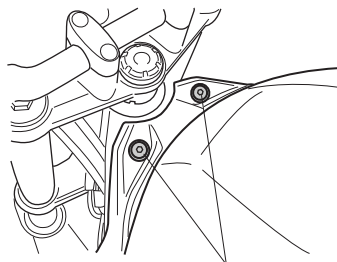
1. 平坦地でサイドスタンドを立てます。
2. シートを取り外します。

☞ 27ページの「シート」参照

3. フレームカバー(左右)のボルトとファスナを外します。
4. フレームカバー(左右)のフック(点線部)を後側より外し、前方(矢印方向)へスライドさせて取り外します。

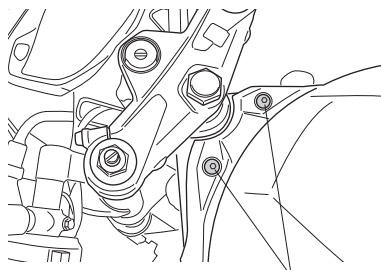


5. フューエルタンクボルトを外します。



フューエルタンクボルト

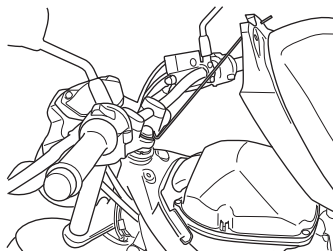
(SV650)



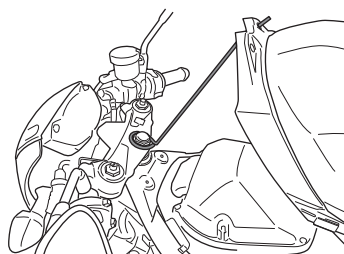
フューエルタンクボルト

(SV650X)

6. フューエルタンク前側を持ち上げ、タンクステーをステアリングシャフトとフューエルタンク締め付け部にかけます。



(SV650)



(SV650X)

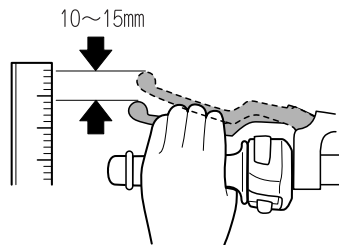
アドバイス

タンクステーは、車両とは別に購入していただく必要があります。

クラッチ

■ クラッチレバーの遊びの点検

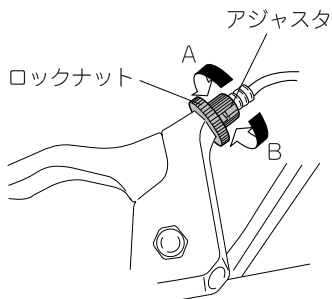
軽い抵抗を感じるまでクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。規定の範囲から外れている場合は調整してください。



■ クラッチレバーの遊びの調整

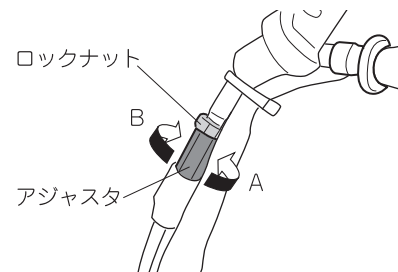
<クラッチレバー部（微調整）>

アジャスタを回し遊びを調整します。
ロックナットをゆるめアジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



<クラッチケーブル部（主調整）>

アジャスタにより遊びを調整します。
ロックナットをゆるめアジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



(SV650)

エンジンオイル

■ 概要

エンジンの寿命は、オイル量と品質によって大きく左右されます。また、日頃のオイル量の点検と定期的な交換は、お車の性能を引き出すうえで非常に大切ですので、忘れずに行いましょう。

エンジンオイル交換時期：

初回1か月または1,000 km
以降6,000 kmまたは1年ごと

オイルフィルタ交換時期：

初回1か月または1,000 km
以降18,000 kmごと

▲ 警告

エンジンオイルの取り扱いを誤ると、お体やお車に悪影響をおよぼします。

取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んで従ってください。

■ エンジンオイルの選びかた

スズキ純正エンジンオイルまたは同等のエンジンオイルの使用をおすすめします。

<スズキ純正エンジンオイル>

規格 オイル	SAE	JASO
エクスター R9000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R7000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R5000 MA2	10W-40	MA2

<同等のエンジンオイル>

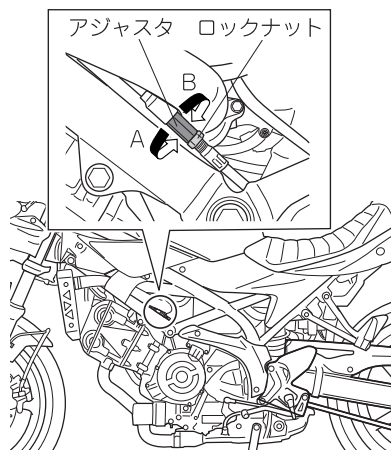
同等のエンジンオイルとは次の規格を満足したものです。

SAE	API	JASO
10W-40	SJ, SL, SM, SN	MA (MA1, MA2)

SAE：米国自動車技術者協会規格

API：米国石油協会規格

JASO：日本自動車技術会規格



(SV650X)

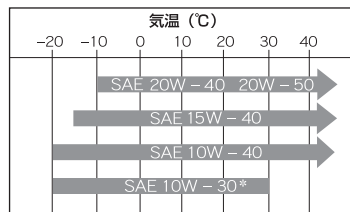
🔧 アドバイス

- 調整後、遊びが規定の範囲内にあるか確認してください。
- 調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しなどがいないか確認してください。

エンジンオイル

<SAE粘度表>

SAE10W-40のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。



* APIがSJ, SLのもの

注 記

銘柄やグレードの違うオイルを混ぜて使用すると、変質して故障の原因となることがあります。

オイルを混ぜて使ったり、低品質オイルを使用したりしないでください。

<摩擦低減剤>

摩擦低減剤は、不具合の原因になるため使用しないでください。

API SJ, SL, SM, SN



推奨します

API SJ, SL, SM



API SN



推奨しません

注 記

クラッチは、エンジンオイルに浸されていますので、摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチのすべりなどの原因となる場合があります。

摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。

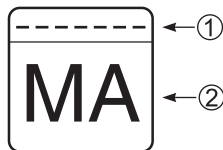
<JASO T903>

JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。

二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。

MA (MA1、MA2)、MBの分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。

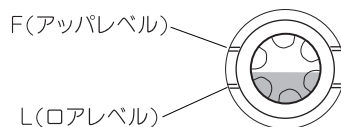
例：MAのとき



- ① オイル販売会社の整理番号
- ② 性能分類の表示MA分類を示す

■ エンジンオイル量の点検

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 3分後、車体を垂直にしてオイルが点検窓のF(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間にあるかを点検します。
オイル量がF(アッパレベル)以上またはL(ロアレベル)以下の場合は、F(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間になるよう調整してください。
 - オイル量がL(ロアレベル)以下の場合は、オイルを補給してください。
 - オイル量がF(アッパレベル)以上の場合は、オイルを抜くなどして調整してください。オイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。



▲ 注意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

周辺部品の整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

— 注 記 —

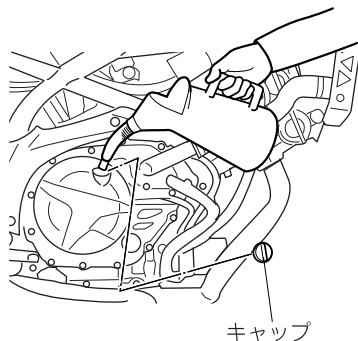
エンジンオイルが多すぎても、少なすぎてもエンジンに悪影響を与えます。

車体を水平な場所に止めてください。車を使用する際には毎回点検窓でエンジンオイルレベルを点検してください。オイルレベルはL(Low) 線とF(Full) 線の間にあることを確認してください。

エンジンオイル

■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 3分後、オイル注入口キャップを外します。
3. 車体を垂直にして、F(アップレベル)とL(ロアレベル)の間に油面がくるように補給します。
4. キャップを確実に取り付けます。



▲ 警告

エンジンオイルは有害ですので、幼児やペットが誤って飲み込むと身体に重大な影響を与えます。

新しいオイル、エンジンから抜いたオイル、オイルフィルタは、幼児やペットが触れない場所に置いてください。

▲ 警告

エンジンオイルに繰り返し触れたり、長時間触れたりすると皮膚がんの原因になるおそれがありますので注意してください。

オイル交換をする際には、オイルに触れるのを避けるために長袖や防水性の手袋を着用してください。もし、オイルが皮膚に付いたときは石鹸で十分に洗い、衣類やウエスにオイルがついた場合は洗濯してください。また、使用済みのオイルやオイルフィルタは、リサイクルするか適切な方法で処分してください。

注 記

オイル注入口からゴミなどが入るとエンジンが損傷するおそれがあります。

作業前にオイルジョッキの内部等にホコリや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口から入らないようにしてください。

⚠️ アドバイス

オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。

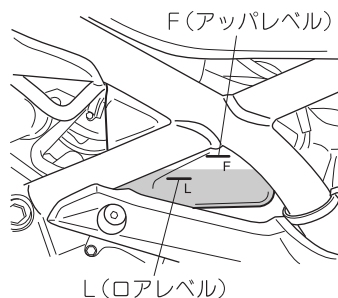
冷却水

■ 冷却水の量の点検

1. 平坦地でサイドスタンドを立てます。
2. 車体を垂直にして、冷却水がリザーバタンクのF（アップレベル）とL（ロアレベル）の間にあるかを点検します。冷却水がL（ロアレベル）に近い場合は、F（アップレベル）まで補給してください。



冷却水の量の点検は、エンジンが冷えたときに行ないます。



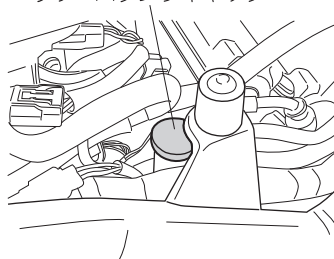
車両左側から見たところ

■ 冷却水の補給

1. 平坦地でサイドスタンドを立てます。
2. フューエルタンクを持ち上げます。
☞ 46ページの「フューエルタンク」参照
3. リザーバタンクキャップを外します。
4. F（アップレベル）まで冷却水を注入します。

指定液：スズキスーパーロングライフクーラント

リザーバタンクキャップ



▲ 警告

冷却水は、人体に有害です。冷却水を取り扱うときは、十分注意してください。

- 冷却水を補給するときは、換気のよい場所で行なってください。
- 飲んだ場合は、無理に吐かずに、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合は、きれいな流水で十分に洗ったあと、医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、水と石鹸を使って洗い落としてください。

▲ 警告

- クーラントを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。
- 冷却水の補給はリザーバタンクキャップから行い、ラジエータキャップは外さないでください。
エンジンが熱いときラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。

冷却水

アドバイス

- 冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
- リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。
- 冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。
- スズキスーパーロングライフクーラントは水で希釈する必要はありません。

エアクリーナ

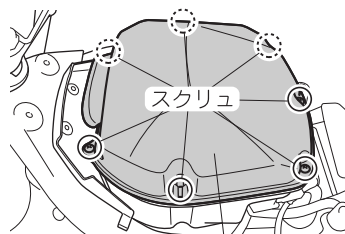
■ エアクリーナエレメントの点検

1年毎に点検してください。ホコリが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

エアクリーナ点検時は、フューエルタンクを持ち上げます。

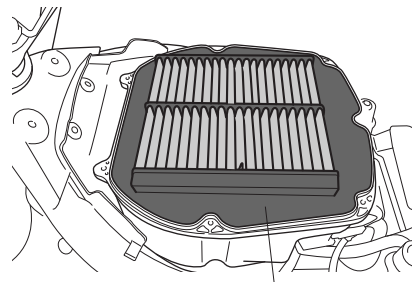
☞ 46ページの「フューエルタンク」参照

1. スクリュ（7か所）を外し、エアクリーナキャップを取り外します。



エアクリーナキャップ

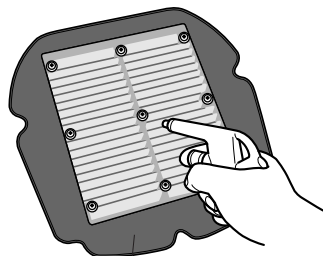
2. エアクリーナエレメントを取り外します。
3. 目視により点検します。汚れ、詰まりがある場合は清掃します。



エアクリーナエレメント

■ エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントを軽くたたか、エアを内側より外側に向けて吹きつけ、ゴミやホコリを落とします。
2. エアクリーナエレメントを取り付けます。



エアクリーナエレメント

注 記

エアクリーナエレメントが破損しているときは交換してください。

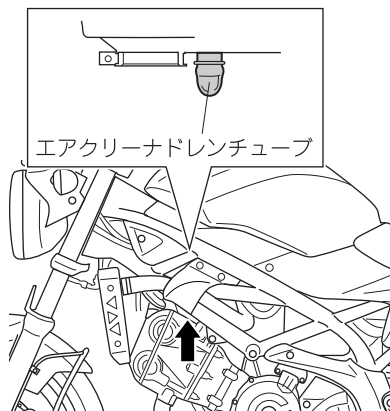
- エアクリーナエレメントおよびエアクリーナキャップの取り付けが不完全な場合、ゴミやホコリを吸入しエンジンに悪影響を与えます。
- 洗車時、エアクリーナエレメントに水がかからないようにしてください。また、エアクリーナボックス内に水が入らないようにしてください。

■ エアクリーナドレンチューブの清掃

1年毎に、エアクリーナドレンチューブに、水やオイルがたまっていないか点検してください。汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを清掃します。

1. エアクリーナドレンチューブを外し、エアクリーナドレンチューブにたまっている汚れや水を取り除きます。
2. エアクリーナドレンチューブを確実に取り付けます。

エアクリーナ



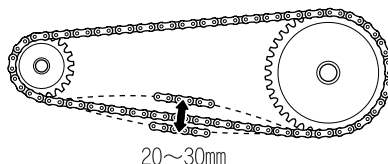
▲注意

エンジン停止後しばらくの間は、エンジンが熱くなっています。このときエンジンに触れるとやけどを負うおそれがあります。

ドライブチェーン

■ ゆるみの点検

前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのゆるみが規定の範囲内にあるかを点検します。
規定の範囲を越えている場合は、調整してください。



また、車をゆっくり動かし、チェーンがなめらかに回転するかを点検します。
回転がなめらかでない場合は、清掃し、注油してください。

▲警告

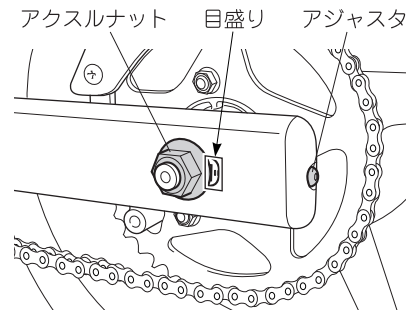
ドライブチェーンの点検、調整、清掃、注油は、必ずエンジンを止めてから行なってください。

🔧アドバイス

ドライブチェーンの調整などは、スズキ販売店にご相談ください。

■ ゆるみの調整

1. アクスルナットをゆるめます。
2. アジャスタを左右少しずつ回します。
3. トルクレンチを使用して、アクスルナットを規定トルクで締め付けます。
規定トルク：100N・m



🔧アドバイス

- アクスルナットの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店へご相談ください。
- 左右同じ目盛りに合わせてください。

■ 清掃、注油

1. ドライブチェーンにホコリや泥などが付着しているときは汚れを取り除きます。シールリングを傷付けないように注意してください。
2. 洗浄はシールチェーン専用クリーナーまたは、水や中性洗剤などで行います。

推奨クリーナー：

スズキアルミホイール&チェーンクリーナー

注 記

不適切な清掃をすると、ドライブチェーンのシールリングに傷がついたりドライブチェーンが壊れたりすることがあります。

- シンナー、灯油、ガソリン等の揮発性溶剤を使用しないでください。
- スチーム洗車機を使用しないでください。
- ワイヤブラシを使用しないでください。

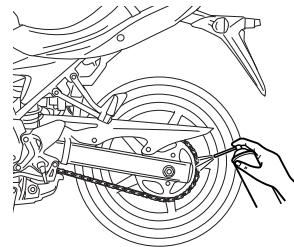
3. 柔らかいブラシを使用します。ブラシは柔らかくてもシールを痛める場合があるため、シールリングを傷付けないよう注意してください。
4. 水や洗浄剤を綺麗にふき取ります。
5. 注油は2輪シールチェーン専用オイルもしくは粘度の高いオイル（#80～90）を使用します。

推奨オイル：スズキチェーンオイルR

注 記

ドライブチェーンオイルの中にシールリングに損傷を与える溶剤や添加物が含まれている場合があります。

シールリング付きドライブチェーン専用オイルを使用してください。

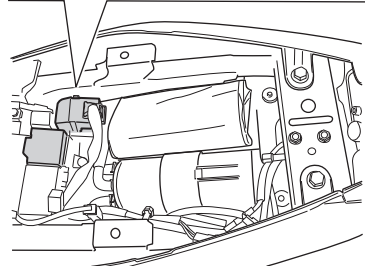
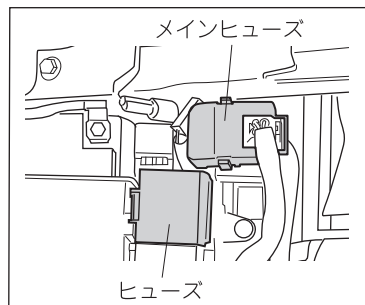


6. オイルがチェーン各部によく行きわたるように、チェーンの手前と奥の両側に注油します。
7. 全周に注油した後、外側の余分なチェーンオイルを乾いたウェスでふき取ります。

ヒューズ

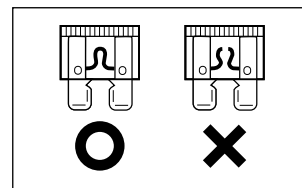
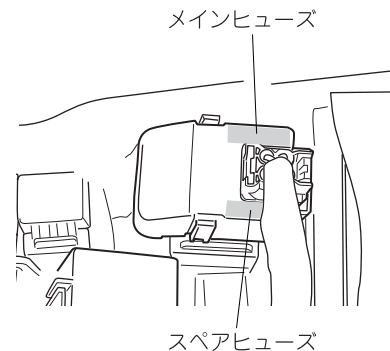
■ ヒューズの点検

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートの下にヒューズがあります。



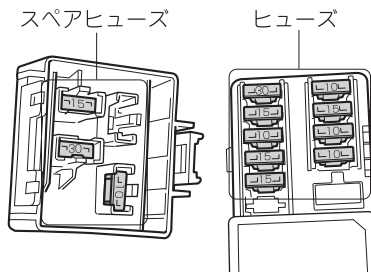
<メインヒューズ>

1. ヒューズカバーを外し、ヒューズを引き出して点検します。
2. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

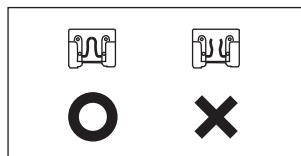


<ヒューズ>

1. ヒューズボックスを開け、ヒューズを引き出して点検します。
2. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



ヒューズボックスキャップの裏側にスペアヒューズがあります。



警告

指定容量を超えるヒューズは、配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

注記

- 電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるときは、スズキ純正用品をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時、ヒューズのまわりに水を強くふきつけることは避けてください。

アドバイス

ヒューズが切れたときは原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

バッテリー

■ バッテリーの点検

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありません。ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、取り外して清掃してください。

▲ 警告

- バッテリーを取り扱う前に、バッテリーに貼付されている注意文をよく読んでください。
- バッテリーには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重いやけどを負うおそれがあります。
- バッテリーは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。
- バッテリーは、子供の手の届くところに置かないでください。
- 乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。

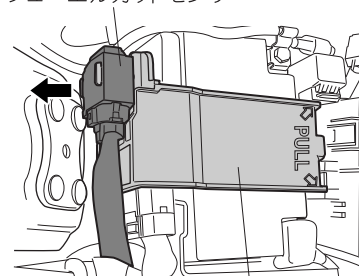
＜バッテリー液が付着した場合は・・・＞

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い、医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。
- 万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。

■ バッテリーターミナル部の清掃

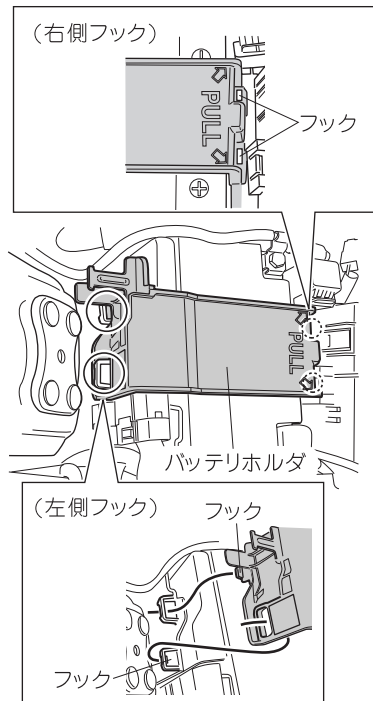
1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートを取り外します。
☞ 27ページの「シート」参照
3. フューエルカットセンサをバッテリーホルダから取り外します。

フューエルカットセンサ

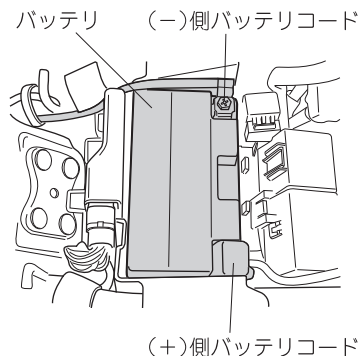


バッテリーホルダ

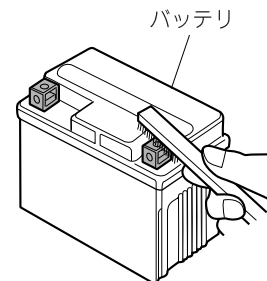
4. バッテリーホルダを右側フック、左側フックの順に外し、取り外します。



5. (－)側バッテリーコード、(＋)側バッテリーコードの順に外します。
6. バッテリーを取り外します。



7. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきます。腐食が著しいときは、ワイヤブラシがサンドペーパーで磨いてください。
8. 清掃後、ターミナル部にグリスを薄く塗り、バッテリーを取り付けます。



バッテリー

⚠️アドバイス

- バッテリーコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFFにし、(－)側を先に外してください。取り付けるときは(＋)側を先に取り付けます。
- ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、(＋)側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。
- 密閉栓は取り外さないでください。
- バッテリーを交換するときは、同一型式のメンテナンスフリーバッテリーと交換してください。
- 長期間使用しない場合は、3か月ごとに補充電してください。詳細はP.67のアドバイスをご覧ください。

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して、規定の空気圧であるかを点検します。規定値を外れている場合は、適正な空気圧に調整してください。



タイヤ空気圧

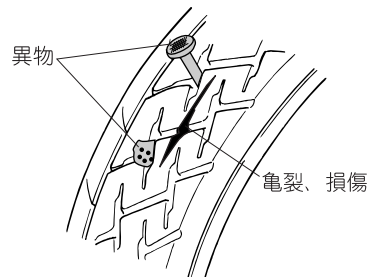
1人乗車時	前	225kPa
	後	250kPa
2人乗車時	前	225kPa
	後	250kPa

▲警告

不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。

■ 亀裂、損傷、異物の点検

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷がないかを確認します。また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



■ 異常磨耗の点検

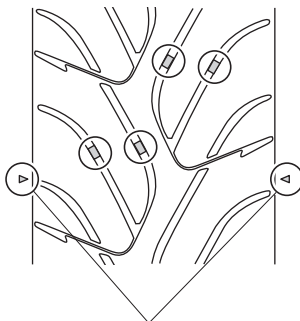
タイヤの接地面が、異常に磨耗していないかを確認します。異常に磨耗している場合は、スズキ販売店にご相談ください。



■ 溝の深さの点検

ウエアインジケーターがあらわれていないかを点検します。

ウエアインジケーターがあらわれたときは、タイヤを交換してください。



ウエアインジケーター表示マーク

アドバイス

コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後2.0mm以上が望ましいです。

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	120/70ZR17M/C (58W)
	種類	DUNLOP ROADSMART III J
後	サイズ	160/60ZR17M/C (69W)
	種類	DUNLOP ROADSMART III J

警告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。

アドバイス

新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

洗車

お車を長持ちさせるためにも、きれいな状態に保ちましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。なお、洗車はエンジンが冷えているときに行いましょう。

洗車は、次の手順で行ってください。

1. 冷たい水道水をかけながら、やわらかいスポンジやブラシでホコリや泥を落とします。硬いブラシなどを使うと塗装面に傷を付ける原因になりますので使用しないでください。
2. スポンジややわらかい布を使って、中性洗剤で洗います。スポンジや布に付いた汚れで傷を付けないためにも、頻繁に洗浄液に浸しましょう。
3. 汚れが完全に取れたら、水道水で洗剤を洗い流します。

⚠️アドバイス

洗剤を使用して洗車したときに、洗剤が洗い流せていなかった場合には樹脂部品に悪影響を与えるおそれがあります。洗剤を使用したときは、大量の水道水を使用して完全に洗い流してください。

4. すすぎ終わったら、セーム革などの吸水性のいいやわらかい布で水分を拭き取り日陰で乾燥させます。
5. 塗装面に損傷がないかを注意深く点検します。損傷があるときは、タッチアップペイントを用意し、下記要領でタッチアップします。
 - a. 損傷している所を清掃し乾燥させます。
 - b. ペイントをかき混ぜ、損傷部分に小さいブラシで薄く塗ります。
 - c. ペイントを完全に乾燥させます。

注 記

アルカリ性や強酸性のクリーナ、ガソリン、ブレーキフルード、その他のケミカル類で洗車すると部品を損傷させるおそれがあります。

洗車後、大量の水道水を使用し中性洗剤を完全に洗い流してください。

注 記

- 洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機やスチーム洗車機は使用しないでください。可動部や電装部品の作動不良や故障の原因となる事があります。
- 洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。
- ラジエータに高圧の水をかけないでください。冷却フィンが損傷するおそれがあります。
- 洗車後はブレーキのきき具合が悪くなる場合があります。この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や表面を擦り過ぎたり強く磨くと、つや消し表面が変化することがあります。

プラスチック製部品

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイなどのプラスチック製部品は傷つきやすいので、清掃するときは中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし、柔らかい布でふいてください。

注 記

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイなどのプラスチック製部品に、以下のものが付着すると傷や部品の損傷の原因になります。

- コンパウンド入りワックス
- 油膜とり剤や撥水剤などのケミカル用品
- 酸性・アルカリ性の洗剤
- ブレーキ液、ガソリン、アルコール、有機溶剤など

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり、流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- ブレーキマスターシリンダ
- スロットルケーブルのブーツ

アドバイス

- 洗車後や雨天走行後にヘッドランプのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドランプを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリーあがりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドランプを点灯させてください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

アルミホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分をふき取ります。

⚙️アドバイス

- アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いものでこすったり、当てたりしないでください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

エキゾーストパイプ

ステンレス鋼のエキゾーストパイプは、油脂などの汚れにより焼けむらが生じることがあります。

- 汚れは、ステンレス用の台所洗剤を使って、布がスポンジで洗浄ののち、十分に水洗いし乾いた布で水分をふき取ります。
- 焼けむらが生じた場合は、細目のコンパウンドで磨いてから、汚れを落とします。

▲注意

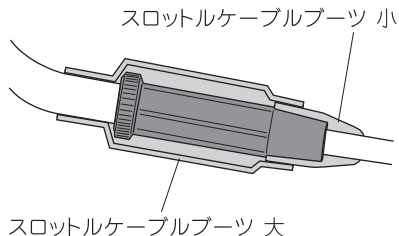
エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

⚙️アドバイス

排気熱によってエキゾーストパイプは変色しますが、機能上問題はありません。

スロットルケーブルブーツ

スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水でぬらした布でふき取ってください。

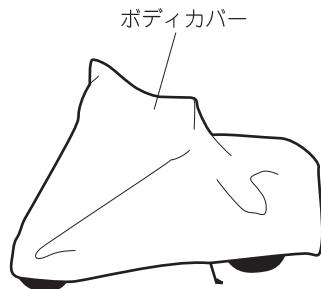


⚙️アドバイス

ブーツが上記のように取り付けられていない場合は、P.42を参考に取り付け直してください。

保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- 保管前に各部のワックスかけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は(一)ターミナルを外してください。

※ 充電については、スズキ販売店にご相談ください。

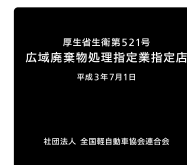
環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリー、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは(社)全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。

廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪取扱店の証

環境を保護するために

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。

リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、下記のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。

(財) 自動車リサイクル促進センター

ホームページ: <https://www.jarc.or.jp/>

× ㊦

サービスデータ

主要諸元

項 目		諸 元	
長 さ		2,140mm	
幅		760mm (SV650)	730mm (SV650X)
高 さ		1,090mm	
軸 距		1,450mm	
車 両 重 量		199kg	
乗 車 定 員		2人	
タイヤサイズ	前	120/70ZR17M/C (58W)	
	後	160/60ZR17M/C (69W)	
最 小 回 転 半 径		3.0m (SV650)	3.3m (SV650X)
エ ン ジ ン 形 式		4サイクル・2気筒	
冷 却 方 式		水冷	
燃 料 供 給 方 式		フューエルインジェクション	
総 排 気 量		645cm ³	
内 径 × 行 程		81.0×62.6mm	
アイドリング回転速度		1,300r/min	
最 高 出 力		53kW/8,500r/min	
最 大 ト ル ク		63N・m/6,800r/min	

項 目		諸 元	
ク ラ ッ チ 形 式		湿式・多板・コイルスプリング式	
トランスミッション		常時噛合式6段リターン	
減 速 比	1次	2.088	
	2次	3.066	
変 速 比	1速	2.461	
	2速	1.777	
	3速	1.380	
	4速	1.125	
	5速	0.961	
	6速	0.851	
ブレーキ形式	前	油圧式ダブルディスク	
	後	油圧式シングルディスク	
フューエルタンク容量		14L	
点 火 方 式		フル・トランジスタ式 バッテリー点火	

サービスデータ

項 目	調 整 値
ドライブチェーンのゆるみ	20～30mm

タイヤ 空気圧	1人乗車時	前	225kPa
		後	250kPa
	2人乗車時	前	225kPa
		後	250kPa

エンジン オイル量	オイル交換時	2.4L
	オイルフィルタ交換時	2.6L
	全 容 量	3.0L

スパーク プラグ	種類	NGK	CR8EIA-9
		DENSO	IU24D
	ギャップ		0.8～0.9mm

バッテリー	種 類	FT12A-BS メンテナンスフリー
	容 量	12V—10Ah

ランプ	ヘッドランプ H/L		12V 60/55W (H4)
	ポジションランプ		12V 5W
	ストップ／テール		LED
	ターン シグナル	前	12V 21W
		後	12V 21W
	ライセンスランプ		12V 5W

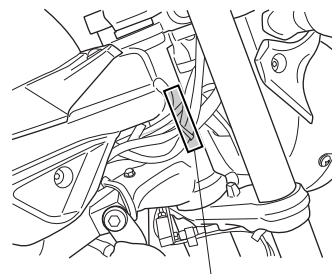
ヒューズ	10A, 15A, 30A
------	---------------

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

車台番号	
------	--

車台番号はフレームヘッドパイプ右側に打刻してあります。



車台番号打刻位置

お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認ください、ご相談ください。

- ① 機種、型式、車台番号
- ② 購入年月日 ④ 相談事項
- ③ 走行距離 ⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

[TEL]

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない

- かけかたは取扱説明書とおりですか
- ガソリンは入っていますか

ブレーキがきかない

- ディスクブレーキはブレーキパッドの磨耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください

ランプ類が点灯しない

- ヒューズが切れていないかを点検してください

スズキ株式会社の窓口は…

〒432-8611 浜松市中央区高塚町 300

スズキ株式会社

お客様相談室

◆ フリーダイヤル ☎ 0120-402253

受付時間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。

(<https://www.suzuki.co.jp>)